東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第２学年 国語科学習指導案	授業者	渡邉 裕
	授業学級	２年Ｂ組（男子 18 名，女子 17 名）
授業テーマ	「情緒」と「論理」をどうとらえるか～実用文と解像度～	

１．本時の目標

○　自分たちの求める〈情報〉とは何なのかについて、実用文の機能に着目しそれを構成する事柄を整理して捉えていくことを通して、情報の特性を理解し事柄のつながりを活用た「伝える力」を育む。

○　「取扱説明書」の働きを考えた「ラベル（見出し）の働き」に着目することで、紐づけていくことで「なんのためにそれが必要か」（全体における位置づけ）の視点を持つ。

２．本時の位置づけ

国語教育と実用文。これは近年注目される事柄であろう。実用文を「どのように読む」のか。また実用文を「読む」とはどのようなことなのか。さまざまな見方が検討しうるが、社会生活との接続を考えると、学習者たちにとって実用文が「身近なもの」であることは間違いない。しかしながら、実際にそれと対峙したときには「どのように読む」のかは考えていないだろう。この近くて遠い実用文について、これまでの学習経験を踏まえどのようなアプローチをもって、情報を活用することにつなげていくか。今回はこの点について考えたい。また、「取扱説明書」は読み終わったときが始まりでもある。そのような「終わり始まり」の特性に着目した、固有性についても考えていくことができるだろう。

この点については、昨年度のプロジェクトの取り組みで連携実践を踏まえてみえた課題である、「なんのためにそれを行っているのか」ということに学習者の意識が向けることができるかという部分との重なりも指摘できる部分である。今回の取り組みから教科等横断の視点、活用を図ることができることが、情報活用能力という点からも重要である。

３．本時の概要

（１）情報活用能力との関わり

情報を活用するにあたっては、対象となる情報に対峙し「要素の抽出」すること、またそれがどのように結びつき対象を形作るのかを把握することが重要である。さらにどのような枠組みで話題が展開するのか、「場」への意識との結びつきも深い。対象全体をとらえることが難しいときにも、それを形作るものを見ていくことで把握できることもあろう。また特定の形式だけでなく「伝達」事態に係る特徴を把握するときにも有効ではないか。

この点はプロジェクトの取り組みでの「ネットワークの構築」という点にかかわりが深いものである。たんなる「つながり」ではなく、「ネットワークの構築」という「構造化」を図ることは、ハブを介さない教科のつながりを顕在化するというチームでの検討課題に影響を与えるものである。

このような情報活用能力と関わりの中で着目した思考に「類推」がある。これを機能させることを考えてみることは、教科の取り組みとしても横断的な視点としても有効であろう。

（２）「情報デザイン」の視点の活用

構造化にあたり、「情報デザイン」の視点（須永剛司（2019））を援用する。ここでは「身体の道具」とともに「言葉の道具」ということ、さらに「思考」や「言語活動」などの要素も取り上げられる。加えて「情報構成」という「ストーリー」に関する事柄も含まれる。これらの視点は、中学校国語科の学習の中で働きかける要素を多く含むものである。ここから、事柄のつながりを意味づけることに「デザイン」を導入し、把握した事柄を他の形式に置き換え表現してみることで「見えるもの」に着目したい。

４．本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
〈１．導入〉「説明書」とは？（１０分） ◆「実用文」の中でも「取扱説明書」について、どのような特徴があるのか考える。 ➡「何を伝える」ものであり、それにかかわる事柄は何か 〇そもそも読まない 〇「使い方」を知る 〇「わからない」ときに見る ◆書籍の紹介（スライド資料＋ロイロノート）をもとに、「取扱説明書」の関わる課題点について共有する。 ➡「読み飛ばし」が可能になるのはなぜなのか。 〈情報〉を消費するということについて考えてみる。	◇「説明書」について、読むか読まないかを話題の入り口とし、その働きを考えていく ◇「終わり始まり」の視点を共有する ◇関連する書籍の紹介をもとに、共通する入り口としての「言葉の道具」の持つ ＊稲田豊史(2022.4)『映画を早送りで観る人たち ファスト映画・ネタバレ-コンテンツ消費の現在形』光文社新書 ＊マイケル・ボンド/竹内和世(2022.4)『失われゆく我々の内なる地図 空間認知の隠れた役割』白揚社 ＊オムリ・ベン＝シャハ―、カール・Ｅシュナイダー／松尾加代ら(2022.5)『その規約,読みますか？ 義務的情報開示の失敗』勁草書房 ＊坂本宗之祐(2022.7)『ロジカルな文章、情緒的な文章』クロスメディア・パブリック　など
〈２．展開〉（１）「取扱説明書」を「読む」(20 分) ◆「取扱説明書」を読み情報を整理する。 ➡構成要素の抽出・整理 ➡「ラベル（見出し）の役割」を捉える 〇順番に書かれている 〇共通の語を使って整理している ◆説明書の「論理」と「情緒」を考える（“客観”を考える） ➡「伝達」に関わる「語の選択」（ことばによる表現）について、「見えるもの」「見えないもの」という点から見てみるとどうかを考える。	◇「どのようなこと」が書いてあったか、「どのように」書かれていたかをもとに考えていく ◇「ロイロノート」の共有ノートを利用し、各班で情報の整理を行う。 ➡「ラベル（見出し）」に着目し構造化することを通じて対象の見え方（解像度）の変化を促す。 ◇性質的に「客観的」と捉えられることが多いが、“客観”ということと文字情報による伝達ということについて考えてみる
〈２．展開〉（２）「字のない説明書」について考える（１５分） ◆「視覚情報」のみの取扱説明書を読み、情報を把握することについて考える（「視覚情報」の効果） ➡把握できる事柄は 〇手順はこれでもわかる	◇これまで見たものは「文字言語」をもとにした情報提示を行っていたが、「取扱説明書」については言葉を用いないものもある。その違いをもとに「ことば」の特性への着目を促す
〈３．まとめ〉 取扱説明書から「実用文」を考える（１０分） ◆「取扱説明書」に含まれる事柄のつながりをもとに、「何を読むのか」について、自分の考えを整理する ◆「何を読むのか」ということについて、「内なる地図」がどのように機能するのか、またその形成にあたってどのようなことが影響を与えるのかを考える。	◇対象を「読む」ことについて、事柄とのつながりの影響を考えることを促す。また、情報の伝達や活用について既有知識とのつながりや受け止め方の差異を見ていくなかで、「内なる地図」の視点を援用する。